**防災地学特論　９. 大雨による災害 課題**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学籍番号 | 7521537 | 氏名 | 寺原伸哉 |

以下の３つの課題について解答せよ。課題の文字数の制限はないので、足りなければページを増やしてよい。

1. 可降水量は多くても70mm程度しかないが、局地的大雨や集中豪雨では、可降水量を超える数100mmの大雨となることが多い。このように局地的大雨や集中豪雨で可降水量を超える雨が降る理由を説明せよ。

―――――以下課題１解答欄―――――

可降水量とは，仮に空気中の水蒸気が全て凝結して降ってきたらどのくらいの降水量となるのかを表すものである．降水量が可降水量より多いということは，頭上の空気中に含まれる水蒸気の量以上の雨が降っているということである．

局所的大雨や集中豪雨は，積乱雲によって引き起こされる．積乱雲が発生し，風に流されると，その場所にまた新しく積乱雲が発生する．そして新しい積乱雲もまた風に流されるため，これらの積乱雲が成熟する頃通りかかる地域では常に強い雨が降り続けることになる．すなわち，別の空気から水蒸気を取り込んで雨が降るため，頭上の水蒸気量以上の雨が降るため，可降水量を超える雨が降る．

1. 川での魚釣りやキャンプなどのときは、たとえ自分のいる場所で晴れていても、川の水が急に増水し危険な状態になることがある。このように晴れているのに増水する理由を説明せよ。

―――――以下課題２解答欄―――――

自身がいる場所が晴れていても，上流や川の付近の地域で局所的大雨，ゲリラ豪雨が発生する可能性がある．その際上流に降った雨が原因で川が急に増水する時がある．また，上流にダムがある場合，ダムが放流すると川が増水する．ダムの放流時にはサイレンが鳴るため，サイレンが聞こえたら川からすぐに離れると良い．

1. 気象庁が「大雨注意報」、「大雨警報」、「大雨特別警報」を発表したときに、それぞれのタイミングで住民が取るべき行動（土砂災害の場合）を１〜３行程度で述べよ（この課題に限っては資料からのコピペで構わない）。

―――――以下課題３解答欄―――――

大雨注意報のとき

→ハザードマップ等で避難行動を確認

大雨警報のとき

→土砂災害警戒区域等や急激な水位上昇のおそれがある河川沿いにお住まいの方は，避難準備が整い次第，避難開始．高齢者等は速やかに避難

大雨特別警報のとき

→危険な区域からまだ避難できていない方は，命を守るための最善の行動を取る．

大雨特別警戒発表時には，災害が起きないと思われているような場所でも危険度が高まる以上事態であることを踏まえて対応する．